第4号
弘大農学部同窓会会報
昭和59年11月15日　発行
発行　弘前大学農学部同窓会
TEL. 0172－36－2111
振替　盛岡4－564番
印刷　（株）　笹　軽印刷

――弘前大学農学部創立30周年記念事業――

実行委員長　森　　敏夫

文理学部の一学科であった農学部が、地域の衆望をになって独立し、農学部としての第一歩をふみ出してから、来年で30周年を迎えることになりました。よく一世代30年と言われますが、わが農学部もいよいよその基礎が固まり、第2のスタート台に立ったと言うべきでしょう。教官陣容といい、学生数といい格段の増加を遂げ、草創期にあった建物の殆んどが消えて、やはり30年の歳月の経過を感じさせる昨今です。その間2,200名余にのぼる俊秀が希望を胸に羽搏き、それぞれの分野で存分の活躍をなされていることは心強い限りです。長くこの大学で学生諸君を迎え、送り続けてきたわたくしも、いつのまにか二千名を越す青年との接触を持ったことを思う時、あらためて教師としてのあり方を自省する昨今です。

同窓のみなさんは、時に学生時代の忘れ得ない思出にふける時もありましょう。そして、母校弘大農学部の前途に寄せる心づかいも切なるものがあろうかと存じます。在学の教官、学生とも、そうした同窓の皆様の熱い志を汲んで、学部の発展のために努力を傾けたいと思っております。

30周年の画期を卜し、来年7月6日には、記念式典、記念講演、祝賀会など数々の催しが企画されております。公私とも御多端の折かとは存じますが、万障お繰合せの上、御来弘、御来学下され、同窓のちぎりを一層固め合うとともに、その目で母校の変貌を見とどけ、併せて今後へのはげましを賜わりますように心からお願い申上げる次第です。

創立30周年記念実行委員会開催

学部に実行委員会ができ、委員会は第1回8月10日、第2回9月19日、（第3回は12月予定）に開かれ、記念行事の具体化にむかって動きだしています。

実行委員

代表　森　敏夫教授　（委員長）
〃　福士勝男事務長
〃　横山　宏同窓会長
委員　斎藤善一教授
〃　浅田武典助教授
〃　工藤啓一講師
〃　角野三好助手
〃　上原小三郎事務長補佐
〃　秋庭慶一庶務係長
〃　塩谷亮一会計係長
〃　相馬秋雄学務係長
〃　豊川好司同窓会幹事

協議ならびに決定事項

1. 会場
   式典、記念講演　弘前文化センター
   祝賀会　法華クラブ3階
2. 講演会講師
   同窓生から松本勤君、39年卒、秋田農業短大教授。もう1名は佐々木信介学部長に一任とし、計2名。

3. 時間スケジュール
一応の目安として、講演会9:30－11:30、式典11:30－12:30、祝賀会13:00－16:00

4. 委員の分担
式　典　森敏夫、福士勝男、斎藤善一、工藤啓一、秋庭慶一。
講演会　森敏夫、福士勝男、浅田武典、相馬秋雄。
祝賀会　横山宏、角野三好、上原小三郎、塩谷亮一、豊川好司。

5. そのほか、学生参加は全面協力を確認し、招待者の範囲とその応待などについては協議中となっています。
なお、記念日までは、まだ期間がありますので、細かいところについては、今後の協議をまつところとなります。簡単ですが、状況をお知らせ致しました。なお最終的に決定いたしました際は、改めて皆様にお知らせ致します。(豊川)

30周年記念彫塑設置の意義

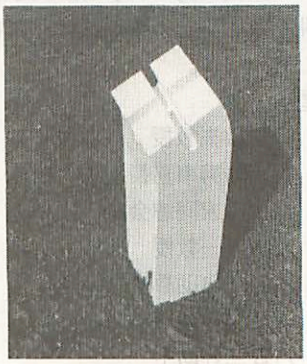
農学部長　**佐々木　信　介**

30周年記念式典も、あと8ヵ月に迫り同窓の諸兄には、何かとお世話になっており、深く感謝申し上げます。記念事業も委員の方々の精力的な御努力によって着々と進行中です。その中の一つである記念彫塑の製作も順調に進み、設置場所も熱考を重ねてこの程決定しました。この彫塑は教育学部の岡田敬司先生にお願いして制作されるもので、形状は、一辺が一米の上方がやや前傾している高さ約3米に及ぶ花崗岩の角柱状のものです。先生にお願いするに当ってその趣旨とモチーフを申し上げたところ、先生は想を錬ること数ヵ月、豊川先生と私との意見なども徴され制作に取り組まれたものです。

作品の形状は先述のようなものですが、基部は数十糎盛り上げられた土面から出ており、また先端は4分割に凹みがつけられ、真上からみれば田の字を呈しております。角柱の4つの面は荒い粗面ですが。上端の4分割の上面は磨かれた滑面になっています。それで恰かも大地から雄々しく逞しく、太陽に向って萌え出ている生命体を想わせるものがあります。それはまた、大地にしっかと根を降ろしながら、限りなき向上と発展の可能性を追求している強い学徒の姿をも感じさせます。

そして上面の4分された面は、われわれ農学の道を歩む者や、農業そのものの目的・意義を象徴しているように思われます。それは次の4つのものの産出であり、創造であります。先ず人類の健康を保障する植物的・動物的「食糧」、2つ目には農耕文化複合といわれるように生活的なものから、精神的なものをも含む広汎な「文化」、3つ目は農業や農学研究等に必要な「技術」、そして4つ目には農民や農村の財的および農学徒の知的な「富」の4つがそれであります。このように考えてくると、この彫塑は農業と農学学徒の目ざす「自然からの創出」を意味していると思います。

同窓の諸兄によってわが弘大キャンパスには今まで全くみられなかった芸術的モニュメントがはじめて設置され、それが今後数多くの後輩に大きな希望と情熱をかき立たせるものとなることを信じております。明春の竣工が待たれる次第です。



彫　塑　の　模　型

連　載

農学部30年の歩み（３）

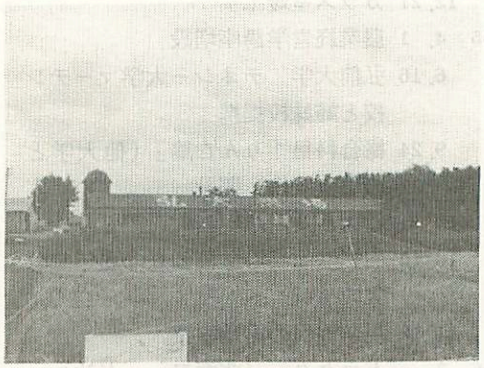
弘前大学農学部30年の歴史を10年単位のシリーズで掲載してきましたが、昭和30年代までは学部創設期、40年代は成長期、そして50年代は学部内充実期とみることができます。

国内が高度経済成長から一転してオイルショックで幕開けした50年代は、資源の少ない国の惨めさをいやというほど味わった時代でした。世の中の不景気がそのまま大学にも反映し、就職戦線の厳しさ、公務員の定員削減による職員の減少、特に農場ではギリギリの状態まで追いこまれております。予算面においても微増にとどまり、物価に追いつけない分を、科学研究費等でやりくりしているのが実状です。

このような社会背景によって、学部としては農業経営学科、寒地園芸生産研究施設などの構想をもって文部省へ要求しておりましたが、50年代で増設されたのは農業経営学講座１つのみでした。しかし、設備の面では、従来ほとんど医学部・病院にとられていた概算要求（大型機器）が３件本学部に設置されたことは特筆すべきことかと思います。

これで３回にわたって連載した農学部30年の歩みは終りますが、詳細につきましては、現在編集作業が続けられております記念誌をごらんいただきたいと思います。

30周年を１つのステップとして、我農学部がさらに発展してゆくことを、同窓生一同見まもってゆきたいと思います。　（完）



まもなく新設される金木農場宿泊所
（昭和59年９月撮影）

年　表　（昭和50年～同59年９月まで）

昭和

50　4. 1　附属農場長に坪松教授発令
理科、社会（農業経済コース）の教員免許状授与課程学部として認定（中学校１級、高校２級）

4. 22　農学研究科の総定員一部改正
農学専攻　16名
園芸学専攻　16名

7. 5　農学部創立20周年記念祝賀会挙行

51　1.　園芸学科推薦入学を実施
（定員の20%以内）

8. 24～27　農学部教官チーム、学長杯ソフトボール大会初優勝

11.　自動洗瓶機　金木農場に設置

11. 8　視学委員の実地視察
（留年者が多いとの指摘）

12. 15　大学会館新営工事竣工

52　3.　岩岡問題について評議会結論を出す（分限免職）

5. 10　農学研究科総定員の一部改正
農学専攻　18名

53　1.　農学コース推薦入学を実施
（定員の20%以内）

3.　農学科（農学コース、農業経済コース）コース別入試を実施

4. 11　農学研究科総定員の一部改正
農学専攻　20名

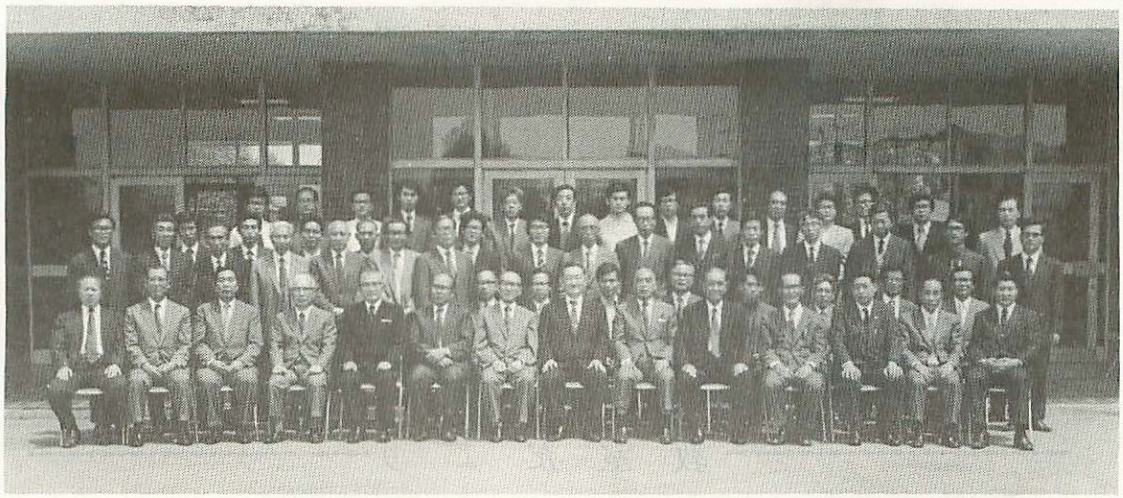
5.　概算要求－核磁気共鳴装置（ＮＭ

R）設置決定
9. 30 保健管理センター竣工
541. 13•14 共通第一次学力試験実施
3. 気象観測装置　藤崎農場に設置
3. スピードスプレヤ　藤崎農場に設置
5. 31 弘前大学創立30周年記念式典挙行
概要要求ーデータ処理装置設置決定
10. 1•2 北海道・東北地区大学附属農場協議会開催
11. 15 水理実験室新営工事竣工
12. 21 ガラス室竣工
55 4. 1 農業経営学講座増設
6. 16 弘前大学　テネシー大学マーチン校と姉妹校提携
9. 24〜27 総合科目「りんご論」（他大学との単位互換）開設
10. 1 バス、乗用車更新
10. 10 旧制弘前高等学校創立60周年記念式典挙行
11. 12 視学委員の実地視察
56 3. トラクター（北海フォード社）金木農場に設置
4. 1 附属農場長に森教授発令
6. 8 農学部助教授小出維夫没
8. 18〜21 学長杯ソフトボール大会、農学部教官チーム優勝（2回目）
10. 学寮食堂問題おこる
57 3. スピードスプレヤ　藤崎農場に設置
5. 19 テネシー大学メンフィス校との姉妹校提携
12. 8 人事院勧告凍結に対する要請書教授会にて可決
58 3. 藤崎農場施設新営工事竣工
4. 13 農学部創立30周年記念事業準備委員会設置決定
5. 概算要求ー生物環境調節装置の設置決定
学寮食堂問題で学生、本部へすわりこみ
8. 弘前大学ねぷたまつり参加20周年
9. 自税型コンバイン金木農場に設置
59 3. 19 附属図書館の増築工事竣工
4. 1 附属図書館長に正木教授発令
教育研究協力室設置
8. 21〜24 学長杯ソフトボール大会、農学部教官チーム3回目の優勝
8. 30 金木農場第1期工事起工式

数字で見る農学部のうつりかわり

年度 昭和	学部長名	教官数 名	職員数 名	卒業生数 名	学部予算 千円	農場予算 千円	農場収入 千円	備考
50.	佐々木信介	51	62	94(9)	55,982	18,015	21,114	
51.	〃	50	60	127(11)	57,814	21,726	23,298	
52.	〃	52	60	118(15)	62,233	23,749	25,832	
53.	〃	52	59	142(7)	64,723	24,436	21,954	
54.	〃	52	58	137(8)	70,520	28,286	30,937	
55.	〃	51	56	120(7)	78,321	32,612	30,554	農業経営学講座増設
56.	〃	51	56	123(7)	83,612	31,015	28,099	
57.	〃	51	54	132(6)	91,837	29,671	32,305	
58.	〃	53	53	130(7)	92,303	29,671	31,153	
59.	〃	53	52		88,579 1)			

1）当初予算のみ　（　）は修士課程卒業数



弘前大学農学部創立20周年記念（昭和50年　7月5日撮影）

農学部入学試験関係の推移（学科、コース設置期を中心として）

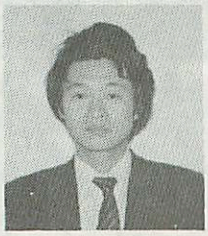
年度	コース	農学部	農学科		園芸化学科	園芸学科	農業工学科		備考
			農学	農業経済			農業機械	農業土木	
30	志望者数	95(2)	95(2)	名					① 400
	倍率	2.4	2.4						② 400 ③ 6,000
35	志望者数	102(1)	102(1)						① 1,000
	倍率	2.6	2.6						② 1,000 ③ 9,000
39	志望者数	208(10)	85(2)	園芸農学科	123(8)				① 1,500
	倍率	3.5	2.8		4.1 名				② 1,500 ③ 12,000
41	志望者数	393(21)	119(6)		154(15)		120	名	① 1,500
	倍率	3.5	3.9		3.8		3.0		② 4,000 ③ 12,000
44	志望者数	634(40)	84(1)	農学科	216(28)	116(11)	218		① 3,000
	倍率	4.7	3.4		5.4	3.8 名	5.5		② 4,000 ③ 12,000
46	志望者数	427(54)	68(4)		162(37)	98(13)	26	73	① 3,000
	倍率	3.2	2.7		4.1	3.3	1.7	2.9	② 4,000 ③ 12,000
50	志望者数	614(85)	153(11)		193(53)	114(20)	60	94(1)	① 5,000
	倍率	4.5	6.1		4.8	3.8	4.0	3.8	② 12,000 ③ 36,000
53	志望者数	719(95)	111(12)	105(4)	216(54)	145(25)	41	101	① 10,000
	倍率	5.3	7.4	10.5	5.4	4.8	2.7	4.0	② 60,000 ③ 144,000
55	志望者数	446(58)	86(10)	72(7)	77(22)	86(18)	80(1)	45	① 8,000
	倍率	3.3	5.7	7.2	1.9	2.9	5.3	1.8	② 60,000 ③ 180,000
59	志望者数	588(78)	47(6)	124(9)	168(57)	67(6)	95	87	① 10,000
	倍率	4.4	3.1	12.4	4.2	2.2	6.3	3.5	② 120,000 ③ 252,000 ＊

（　）は女子学生　　※半期値上げ

①入試検定料　②入学金　③授業料

新任教官の紹介

農産物流通論講座　　**神　田　健　策**



1948年（昭23）生まれの35歳。北海道生まれの北海道育ちです。海を渡って住むのは今回が初めてですので、すべてが目新しく映ります。赴任早々、アップル道路を通って岩木山ふもとのリンゴ園に行ってみました。秀麗な山を背景に広大な津軽平野を眺めながら、この地に根づいた仕事ができたらと思いました。

教　室　だ　よ　り

＜植物病理学講座＞

植物病理学教室は昭和26年文理学部農学科に照井陸奥生先生（現本学名誉教授）のもとに開講され、その後昭和46年には沢村健三先生（当時果樹試盛岡支場病害研究室長）が着任され、現在沢村健三教授、原田幸雄助教授、藤田隆助手の三教官が学生の指導に当っています。今年度の所属学生は３年生８名、４年生７名、大学院生３名、研究生１名さらに留学生１名と教官を含め総勢20名を越える学部内隋一のマンモス研究室となっています。

私達が学んでいる植物病理学は一口で言えば、植物－病原体－環境というトライアングルの中でそれぞれの相互関係を調べる学問であり、そのためには植物学的な知識はもちろん化学の分野に至るまでの幅広い知識と技術が必要とされてきます。したがって私達所属学生一同は日夜、研究勉学に励んでいる訳です。

藤田助手が取組んでいる研究テーマは、青森県特産のナガイモに発生する壊疽モザイク病です。この病気は県内に広く蔓延しておりナガイモの品質、収量に大きな影響を与えていますが、病原ウイルスの正体はまだ十分明らかにされていません。今のところ病原ウイルスを純化精製し、抗血清を作製することによってウイルスの検定を行なおうと着々と研究がすすめられています。

原田助教授は、銹菌に関して極めて精力的な研究をなさっており、北方植物に寄生する銹菌のフロラ及びその生活史に関する研究がライフワークとなっています。さらにはリンゴの赤星病、紋羽病等々その研究分野はたいへん幅広く、特にバラ科木本植物に寄生するMonilinia属菌の分類学的、生態学的研究では海外の研究者からも注目をあつめ、昭和57年にはNew South Wales大学（オーストラリア）よりWilletts博士が当研究室に５ヶ月間滞在され共同研究が行われました。

沢村教授は、試験場時代よりリンゴの各種病害に取り組まれており、現在も“リンゴ黒星病菌のレース”、“ステロール合成阻害剤による２、３のリンゴ病害防除”、“リンゴ腐らん病の生物防除”、等々の研究に御活躍のことはもちろんでありますが、学生への指導、助言にもお忙しい毎日であります。また今年９月には、リンゴ高接病の共同研究を通じて20年来の親交のある、Washington州立大学（アメリカ）のMink博士が国際ウイルス学会終了後に弘前に一週間滞在され、大学院生、研究生が取り組んでいるテーマに様々な助言を与えて下さいました。

このように当研究室は外国研究者との交流も活発であり、国際性豊かであることも大きな特徴のひとつとなっています。

今年10月より本学の姉妹校である米国テネシー州立大学マーチン校よりThimothy君

（25才）が農学部に交換留学生として一年間滞在することになりました。彼は現在当研究室に所属し、大学院生と机を並べながら日本語の学習や日本の学生生活に早くなじむよう努力しています。Thimothy君（愛称ティム）はまだまだ日本語がうまくなく、私達学生も英語で話すことに馴れていないということで、はじめはお互いになにかもどかしい、不思議な緊張感につつまれていましたが、今ではうまくコミュニケーションが続いています。

当研究室も開講以来、卒業生数は125名（うち女子24名）を数えるに至り、国・県の研究機関、農林行政等の公務員関係を中心に医薬、農薬関連企業から農業自営等々幅広い分野で活躍しています。

同窓生の皆様には今後ともなお一層の御活躍を期待すると同時に我々後輩への御指導、御鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

（研究生　荒井）

＜農業水利学講座＞

農業工学科増設に伴い、昭和42年に当教室が設置されました。農業工学教室より引き続き篠邉教授が担当され、さらに、同43年川越助教授、同47年工藤助手が着任し、現在にいたっております。卒業生は第１回生からかぞえて124名（県内48名、県外76名）内公務員関係就職者が６割強と多いのが特長です。

研究は教室名のとおり“水”を中心とした問題をとりあつかっており、通称水商売と言われております。大きく言いますと、雨が降ってから海に流れ出すまでの水の動きとそれに関する諸現象を解明している教室ということになり、教官・学生卒業研究もバラィティに富んでおります。

最近の研究動向を紹介しますと、篠邉教授は学会理事、支部長など多忙を極めるなかで、今年３月「魚道の研究」についてまとめられました。又、長年の研究成果であります「日本国内地点別蒸発散値」という本を出版されたばかりです。川越助教授は一貫して河川水利構造物の洗掘問題に取り組まれております。工藤はエネルギー難の時代に、どのようにすればエネルギーを殺せるか（水流の減勢効果について）という時代錯誤的？研究を行っております。

今年、教室所属学生は９名でしたが、１人９月卒業したため現在８名、それぞれのテーマを持って研究に励んでおります。

教室の年中行事としては、各種コンパの他に、教官・学生が水利施設等を見学しながら１週間程旅をするサマーセミナ（過去10回実施）があり、スケジュールは学生が企画するわけですが、今年は実施できませんでした。それから、秋に行うダムツアー（同８回）があります。これは我教室で余水吐水理模型実験を行った県内のダムを中心に見学をするもので、今年は先輩諸兄の御協力をいただき、１泊２日の日程で７ヵ所のダムを見てきました。

その他学部に誇れるものとして、地道ではありますが、農業工学教室時代より引き継いで約30年になる気象観測です。野帳も150冊を超え、現在このデータをコンピュータに入れて利用者の便をはかっておりますが、卒業生の方の中にも卒論で使用された方々がおられるのではないでしょうか。

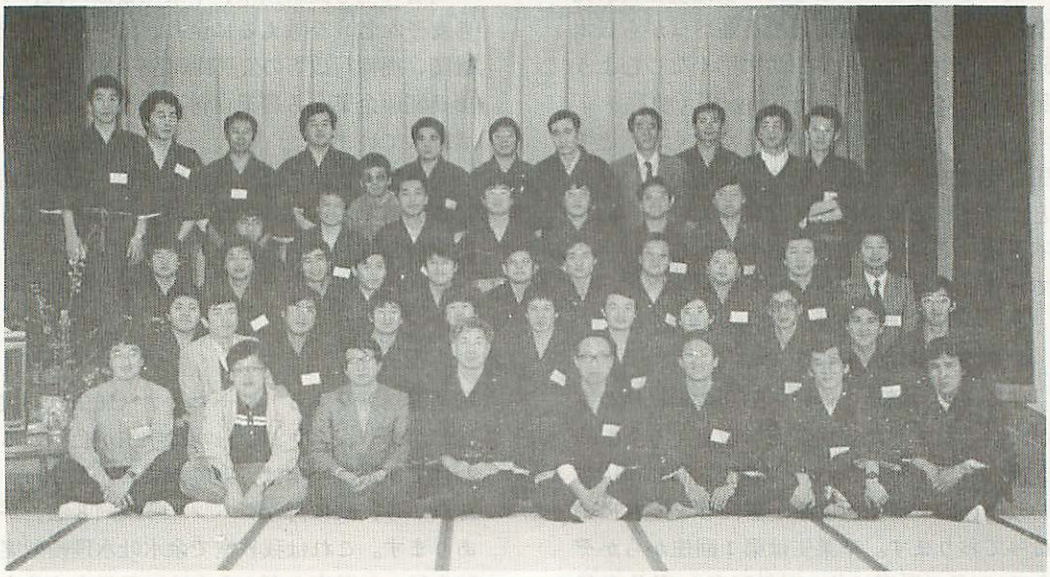
卒業間際には、学生自ら卒業研究抄録、文集、記念アルバムの作成などワイワイやっているのも教室の風物詩です。

今後共、我教室の卒業生を厳しく、暖かく御指導いただくとともに、大学の方にもお寄りくださいまして、在校生にも色々御助言をいただければと思います。　最後に同窓生諸氏の一層の御活躍をお祈りいたします。

（Ａ．Ｋ記）

弘　水　同　窓　会

（弘前大学農学部農業水利学教室同窓会）



タテ、ヨコの関係が弱くなっていることは学部、卒業生を問わず、現在の風潮でありますが、せめて同じ教室で学んだ卒業生の顔と名前だけは覚え、日頃疎遠となっている先輩・後輩のつながりを深めようという主旨で発足したのが本同窓会です。第1回は昭和55年、第2回は本年4月29日百沢にて開催されました。参加者は53名で花の34年卒と言われる大先輩より、まだ湯気がたっている59年卒まで、実に25年間を超越した色々な話題が飛交い、豪快なる一夜を過しました。当教室は代々続いた気象観測を行っており、顔は知らなくとも名前だけはという後輩も多く、先輩達との溶込みも早かったように思います。なお、本会は4年に一度オリンピックの年に開こうというユニークなる会でもあります。さらに会員の親睦を深めるため会誌“弘水”も発刊しております。総会のため、先輩達に現在の教室の状況を理解してもらおうと在校生は「水利学教室の歩み」というビデオも製作し、第2巻目となりました。回を重ねるごとにすばらしい番組が作られてゆくことを期待しております。

4年たったら、また会いましょう！

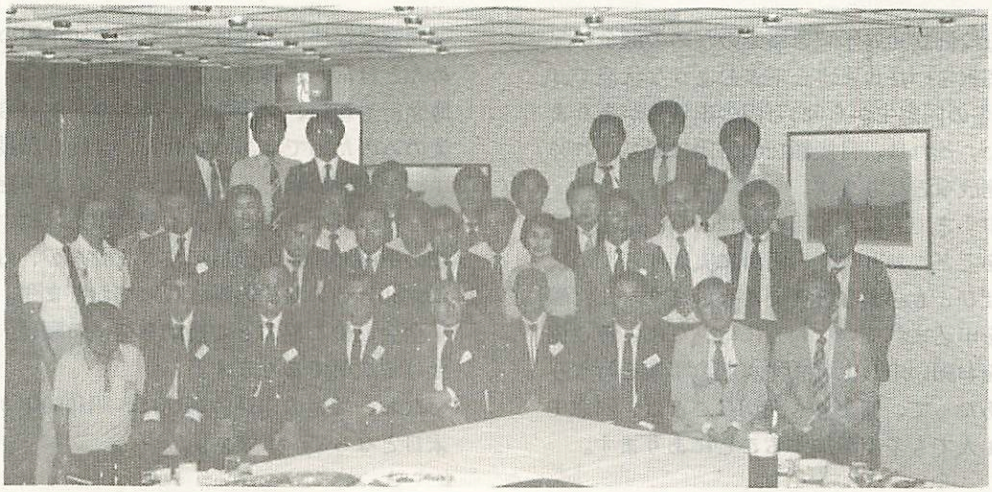
（一卒業生より）

支部だより

福　島　県　支　部　会

恒例の年1回の総会兼懇親会が行なわれました。二本松市岳温泉、国民年金保養センター「阿多多羅」において、5月26日、夕6時から1泊で行なわれました。会員20名の参加で、出席率でかぞえますと70%と大変盛会でした。事務局から、森敏夫農場長、豊川好司幹事が参加しました。福島県は面積的にも大変広く一同に参集することはなかなか容易ではない所ですが、皆さんたくさん集まって、楽しく懇親できました。こういう会ならば、何度でも参加したいと、帰りの汽車で話合ってきました。（豊川記）

関東支部総会に参加して



第3回関東支部総会が6月9日㈯京橋会館において開催されました。特別会員の森田、矢橋両先生も元気な御様子で、短い時間ではありましたが、なごやかな一時を過しました。参加者は37名、本学部からは佐々木学部長と、工藤（事務局）が出席し、30周年記念事業の取り組み状況を説明いたしました。年々増加する大支部（現在約300名）の運営は大変だと思いますが、昨年支部名簿を作成しており、安部支部長をはじめ事務局の方々の御努力には敬意を表します。来年の記念レセプションには支部会員そろって参加した旨のお話をうかがい、意を強くして帰弘いたしました。今後、関東支部がさらに発展することを切望いたします。（工藤記）

「30年の歩み」編集委員会より

同窓会会報第2．3号でお知らせしましたように、農学部30周年記念事業の企画の一つとして、記念誌「30年の歩み」を発行することになっております。

記念誌の内容は次のような構成になります。

① 農学部での各種場面における思い出。
② 「30年の歩み座談会」の内容
③ 各教室の紹介と教育・研究の変遷
④ 建物・施設および各種行事などの写真集
⑤ 農学部30年間の沿革（年表）

現在、3人の編集委員は、「農学部30年の歩み座談会」の編集、資料収集、依頼原稿の督促などに奮闘中です。

ところで①の思い出についての同窓生からの原稿が予定通り集っておりません。原稿を依頼されたことを忘れた方もあるかと思いますがよろしくお願いします。また会員の中で「こんな懐しい思い出がある」、「載せてほしい写真がある」という方はどしどし投稿願えれば幸です。400字詰原稿用紙4枚で本文1頁になります。編集の都合上、投稿の締切日は12月15日（必着）までとします。編集委員会としては、冬休み返上の覚悟で構成を終え、印刷に回す予定です。

．皆さんからの投稿、写真提供などで立派な記念誌を作ろうと編集委員一同頑張っております。御協力お願いします。

30周年記念事業醵金状況のお知らせ

母校創立30周年記念事業のための醵金状況を御報告いたします。下表のような状況で、792名の同窓生から925万円の申込みがありました。これは、目標額1200万円に対し、77%の達成率となります。

申すまでもなく、目標額1200万円は記念事業をとどこおりなく、円滑に実施するためにはぜひとも必要な経費でございます。まだ醵金を申込まれていない方には、なにとぞご協力をお願い申し上げます。記念事業を行なうにあたって、何よりも大切なことは、同窓生が1人でも多く参加することにあります。

同窓会存続の意義は、これまで30年間めんめんと日常的活動としておこなってきた、名簿発行や親睦、交流会などにあり、本記念事業のみのためではありません。今後も息長く1つの交流の場として続けていくことを銘記しなければなりません。本記念事業は長い過程の中の30年目の節目にすぎませんが、母校創立30年間の集約の場となっております。

全会員のご協力とご援助を切にお願い申し上げる次第であります。

なお、醵金の申込み締切は、昭和60年3月末日となっております。

醵金状況（1984.6月）

学　科	農学科	園芸化学科	農業工学科	園芸学科	合　計
醵金					
振込額	3,992,371	1,283,000	1,067,000	550,000	6,892,371
申込額	5,725,000	1,600,000	1,280,000	645,000	9,250,000
目標額	4,500,000	3,200,000	2,600,000	1,700,000	12,000,000
醵金者数					
申込者	382	176	150	84	792
定　数	717	637	519	337	2210
割合(%)	53	27	28	24	36

※醵金振込額の端数は郵送料を差し引いたことによる。

同窓会名簿
59年版発行される

会費を未納の方へ御案内致します。新しい名簿が完成し発送されました。御承知のように、名簿は会費納入者へ配布することになっております。まだ58～59年度会費を納めていないで、名簿御入用の方は会費3000円を納入していただければ、早速お送り致します。なお、余分は300部でございます。品切れの際には、会費は次年度へまわしますので御了承下さるようお願い致します。

学内人事

工藤啓一助手　講師昇任（9月15日）

慶　事

佐々木信介学部長
産業教育100年記念教育功績者表彰
（昭和59年11月20日）

弔　事

八重樫由孝（57農地工学卒）
今　ハルエ（44園芸産物利用学卒）
遠藤　　直（39農産製造学卒）